



2015 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第8戦

SUPERBIKE RACE in OKAYAMA

TOHO Racing with MORIWAKI レースレポート

JSB1000クラス #104 山口 辰也

10月17日(土曜日) 天候：晴れ 路面：ドライ

公式予選／1' 29" 654 8番手

10月18日(日曜日) 天候：晴れ 路面：ドライ

決勝／6位 (24周)

開催地：岡山県・岡山国際サーキット (1周=3,703km)

入場者数：8,200人 (土・日合計)

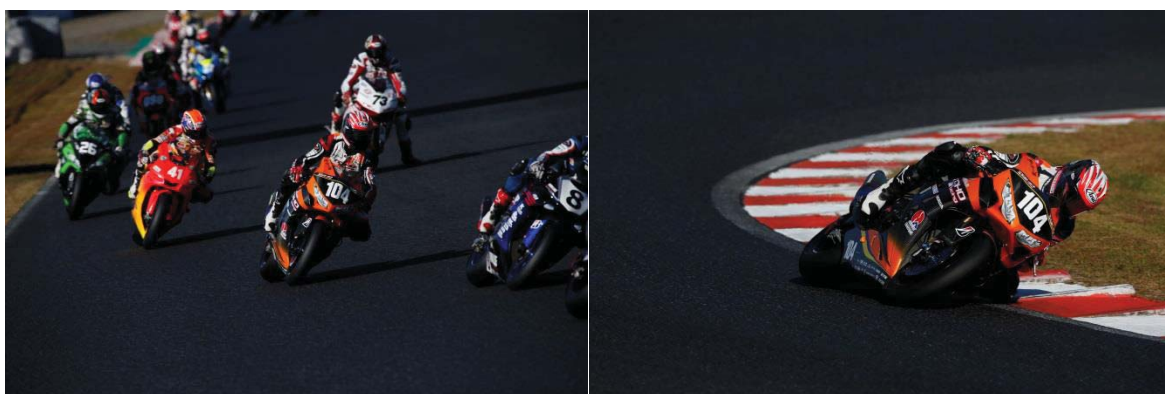
第6戦オートポリスラウンドから約1カ月、JSB1000クラスは、今シーズン6レース目となる第8戦岡山国際ラウンドを迎えた。9月30日(水)、10月1日(木)に行われた事前合同テストは、初日は晴れ、2日目は雨となったが、その中で、レースウィークに向けてマシンのセットアップを進めた。気温が低くなることも暖かくなることも想定してタイヤをチョイス。コンスタントに走れるようなセットを進め、雨でも問題がないことを確認し、あとはレースウィークのコンディションに合わせて微調整すればいい状況だった。

実際にレースウィークに入ると、マシンのフィーリングはよかったが、意外にタイムが伸びない。山口はライディングで調整し、タイムアップを図る。初日を終えた時点でデータを見て、よくない部分を確認。ノックアウト方式で行われるQ1は、マシンセットに使いながらも1分29秒608をマークし、6番手で上位10台で行われるQ2に進出。Q2では、さらにタイムを伸ばしたいところだったが、1分29秒654とQ1よりタイムを出せずにいた。Q2で変更した部分に弱冠不具合が発生していたからだった。

これを受けてマシンセットを変更。決勝日朝のウォームアップ走行で試すも、あまりいい方向に行かなかった。メカニックと話し合い、決勝に向けてバネレートを変更し、ぶつつけ本番で臨んだ。

東広島にあるTOHO Racing with MORIWAKIにとって今回の岡山国際ラウンドは、ホームレースでもあるだけに、いいレースを見せたいところだった。そしてスケジュール通りの時間に24周先のゴールを目指してスタートが切られる。

山口は、スタートは悪くなかったが、1コーナーでのポジション取りに手間取り、オープニングラップは8番手で戻って来る。4周目には加賀山選手をかわして7番手に浮上。そのまま周回を重ねて行くと、前を走っていたライダーが転倒し、6番手に浮上。さらに前に行くライダーを追っていたが、バックマーカーに行く手を阻まれ勝負するところまで行けず6位でフィニッシュ。暫定ランキングでは、津田選手と同ポイントの5番手に浮上した。



JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

「チーム、KYBさん、NISSINさん、ブリヂストンさんのおかげで、マシンは決勝レースが一番いい状態でした。1コーナーでのポジション取りがうまくいかず前に出られなかったことが最後まで響いてしまいました。せっかく最高のバイクに仕上げてくれていたのに、結果に結びつけられず悔しいです。最終戦鈴鹿は、2レースあるので、一番いいリザルトを残せるように全力で努力します！ 今回も、たくさんの応援ありがとうございました」

チーフメカニック 戸井田剛コメント

「昨年は本コースで3位に入賞していましたので今年も3位までに入賞したかったのですが、思うようにペースが上げられず6位という結果になってしまいました。応援しにお越しいただいた皆様には大変申し訳なく思っています。次戦、最終戦は2ヒート制で2レースありますので3位以内に入れるように努力したいと思います」

総監督 福間勇二コメント

「今回はホームコースということもあり、多くのご協力、ご賛同いただいております皆様にお越しいただき応援頂きましたこと、心より感謝申し上げます。6位と表彰台は逃してしまいましたが最終戦の鈴鹿ではさらに良い結果が出せるよう、チーム一同努力して参りますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます」

株式会社TOHO
TOHORacing with MORIWAKI
担当：三山